謡講―謡がつなぐ人々の輪―

でんおん講座　２０１３／１０／２３
宮本圭造

一、初期の謡講

『親俊日記』天文七年（一五三八）正月七日
鯰二、河村彦左衛門、ウタイ講頭仕候由候間、遣之。
（河村は伊勢伊勢守の家臣。伊勢守家中には河村の他にも謡を愛好したものが少なくなかった。謡本を数多く書写した淵田虎頼もその一人。河村が頭役をつとめた謡講の講中には、おそらく淵田も加わっていたであろう。）

『言継卿記』永禄十年（一五六七）五月三日条
烏丸父子被誘引之間、久河入道説曾所へ令同道罷向、是斎父子同前、毎月之諷講有之、大和入道、淵田玄少以下十四五人音曲囃子等有之、五番其外小諷共有之、盃三出及数盃

二、『舜旧記』に見える謡講

慶長七年
三月二十七日　於清閑寺謡講始依催、予列座、神官十二三人来、各出銭三十銭也、稽古白髪、師道、山科進藤伊与来、予及暮在所へ帰也
四月二十三日　於清閑寺謡講催有、進藤伊与来、柏崎稽古也、晩在所帰寺也
五月二十三日　謡講、於清水茶屋興行、予重衡稽古也
七月二日　謡講、予・主水両人頭役也、稽古女郎花也、於主水興行
十月五日　於豊国謡講、宮内大輔・治部両人頭役、予越了、一宿滞留
慶長八年
二月二十九日　豊国於兵部少輔宅、謡講興行、遠（進）藤伊与来、稽古玉井也
五月十二日　謡講、式日、治部大輔頭役也、予嶋津使来之由依申、令帰寺也
六月十二日　於権少副謡講、式日、進伊来、稽古矢立鴨也、及晩帰寺
七月四日　謡講、於宮内大輔興行、稽古舟橋、新伊与来
十二月三日　謡講、左近頭役也、今日豊国へ越了
慶長九年
三月七日　中務大輔、謡講興行、稽古鵜飼也
閏八月十四日　豊国於治部大輔、謡講、新編梅（軒端梅の誤りならん）稽古、伊与来
十月三日　於豊国、予謡講頭役、稽古白楽天、進藤伊与来也
十二月十二日　於豊国兵部少輔宅ニ而謡講興行、頭役予、進藤伊与来也、予罷越
慶長十年
二月二十一日　謡講、禰宜播磨頭役、稽古難波、予晩ニ令帰寺
三月二十日　久右衛門所ニテ謡講、稽古海士也
六月二十二日　於宮内大輔宅、謡講興行、稽古源氏供養、予依煩不出
七月十九日　宮内少輔於宅、謡講、稽古カンタン、与州来
八月十二日　神楽衆清次於宅、謡講興行、各罷也、稽古張良也、及暮帰寺也
九月二十二日　右京亮於宅、謡講興行、与州稽古松の山
十月十二日　於掃除藤十郎於宅、謡講、伊与来、稽古三井寺、予罷
慶長十一年
正月二十四日　於刑部少輔、謡講興行、与州来、稽古通小町
二月十二日　豊国之内神楽ニ上野於宅、謡講、稽古朝長、与州来也
三月二十四日　禰宜左近於宅、謡講興行、稽古金輪
四月二十八日　謡講、於中書興行
五月十二日　謡講隼人於宅興行、稽古安宅、進藤伊与来
九月二日　於当寺毎月謡講、予頭役令興行、朝食予振舞、与州各人来、稽古葵上、及日晩帰也
慶長十二年
正月二十一日　兵部少輔於宅謡講興行、呉羽、与州来、朝ヨリ晩終日催也
閏四月十二日　掃除久右衛門於所、謡講興行、進藤与州来、稽古丹後他
閏四月二十七日　於宮内少輔謡講稽古、アウム小町
五月十二日　月次之謡講、彦十郎頭役、与州来、稽古忠度、及暮帰寺也
（以下抄出）
慶長十三年
三月八日　於中書宅謡講、主膳頭人、稽古宇治頼政也
四月三日　謡講、予依頭役、於神宮寺令興行、朝食ヨリ各来来、晩迄終日催也、稽古常陸帯、与州早朝来

講中の顔ぶれ
主水佐・治部大輔・権少副（吉田兼之）・宮内大輔・宮内少輔・禰宜左近・兵部少輔・中書・主膳・播磨・隼人・左近・上野・右京亮・神楽衆清次・掃除藤十郎・掃除久右衛門・神龍院梵舜
・・・・豊国社の祝衆・禰宜衆が中心
頭人・・・慶長七年までは二人。それ以後は一人。
式日・・・十二日であったらしいが不定。

二、進藤流の素謡（徒謡）

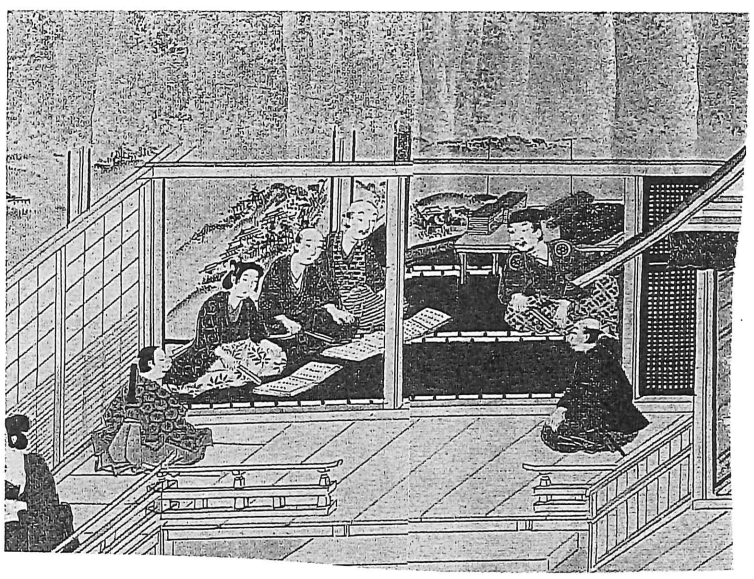
『隔冥記』
於仙洞、御月見之詩哥（中略）詩哥済、徒謡・御囃以上七番、為院命、徒謡四番者、予謡之指図也、朝長・邯鄲・蟬丸・天鼓也、御囃者、浮舟・松風・当麻是也、今日初而、進藤以三謡聴聞也（寛永十五年（一六三八）九月十三日条）

『尚嗣公記』
今日、進藤以三来、弟子徳兵衛・三郎右衛門・又兵衛・七兵衛・権三郎、以上六人来、有謡、檜垣・卒都婆小町・小原御幸・朝長、次、老松切、少為祝言許也、後、又依所望、三番加之、三井寺・角田河・関寺小町、面白事絶言語許也（寛永二十一年正月二十二日条）

今日朝茶湯、大覚寺殿・玄陳・玄養・宗旦等也、昼進藤以三来、有謡、蟻通・芭蕉・接待・俊寛・関寺小町・鐘馗［曲舞斗］・舞車之乱曲二ツ有之、助音徳左衛門・権六・庄九郎・権左衛門・又兵衛等也（寛永二十一年十一月二十三日条）

今日、以三・栄可来、有謡、応山・大覚寺殿御成、（中略）
栄可檜垣　同木賊　同松風　同景清
太郎兵衛栄可子三井寺　以三蟻通　同小原御幸
又兵衛蟬丸　以三関寺小町　同朝長
盛久カタリヨリ　栄可・以三合シテ謡之、栄可シテ、以三ワキ也（正保三年（一六四六）八月十六日条）

浦田家『日記』（神宮文庫蔵）
進藤以三、参宮ニ付、明王院へ立被寄、謡三番有、雲林院・東岸居士・葵上・切ニ盛久也、弟子三人同道、暮前山田へ被帰事



No. 1

『素謡世々之蹟』

《12　素謡の起源》

かくて名をも服部宗巴とあらため、京に隠居しめてよりは、全ら徒歌の業を世に立てゝ、いよ〳〵益に行はれき。これ今の世天の下おしなべて、人皆の愛(で)行へる徒歌と云式、出来初し事の初になむありける。既に云が如く、当時は今の如く一ッ曲(いはゆる番謡)ながらを徒歌に唱ふやうの式とてはなく、

三、謡講の実態

元禄二年（一六八九）刊『京羽二重織留』「諸芸会日」（元禄五年刊『万民調宝記』、元禄七年刊『年中重宝記』にも転載）

▲謡会

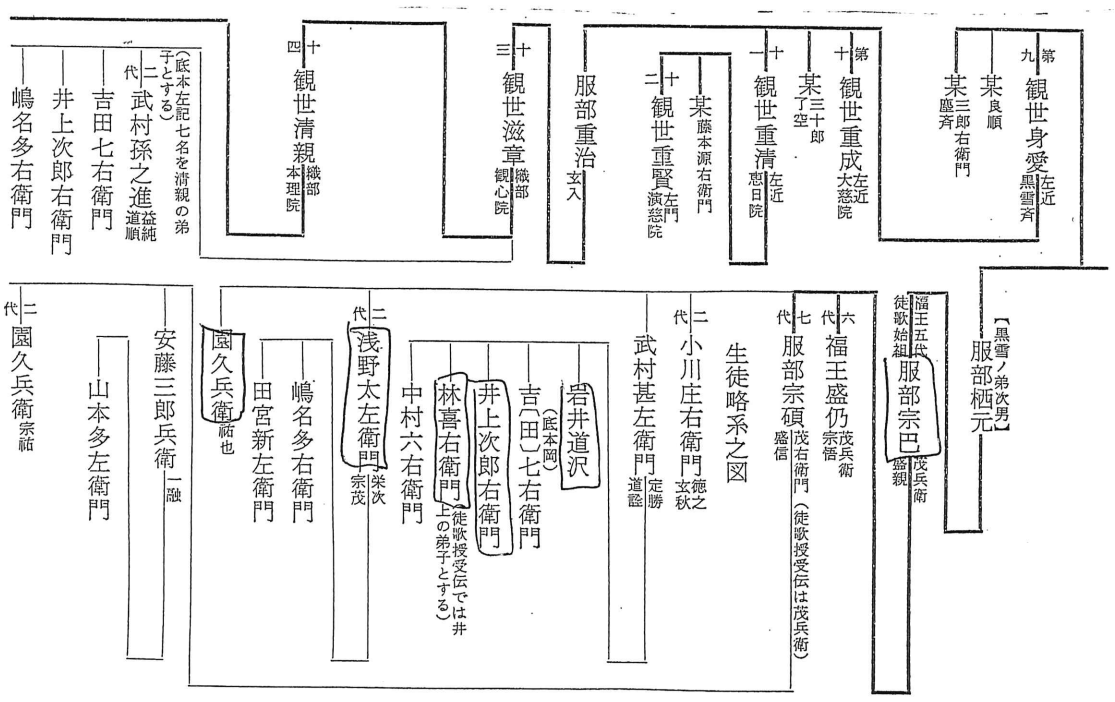
観世流　月次二十二日　双林寺内
進藤流意三門流　月次十七日　高台寺内　昌純院

（服部宗巴は延宝元年五月二十二日の没。進藤以三は寛文二年九月十七日の没）

宝暦四年刊『京羽二重織留大全』「諸芸会日」

▲謡　月次會

廿二日　観世講
双林寺林阿彌にて
廿五日　園　久兵衛
衣棚姉小路上ル丁
廿四日　淺野太左衛門
たこ薬師室丁東へ入丁
十二日　林喜右衛門
新町通佛光寺下ル丁
十六日　井上次郎右衛門
冨小路通錦上ル丁

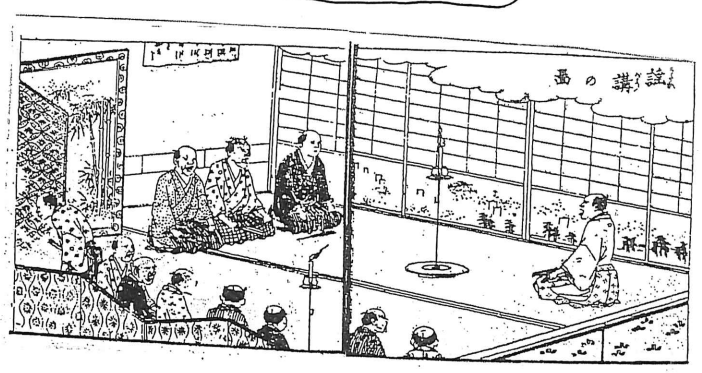


【謡講の形式】

『素謡世々之蹟』

《40　素謡会の形式》

さてそのかみ、凡て徒歌の会おこなへる状は、今の如く明障子を建し内にて唱ふなどの式はなかりしなり。そは、凡て能囃子おこなふ状の如く、其場に出て聴者に面を見えて行ひし物なるが、さるは、唱ふもの（刊本唱ふるもの）、はた聴者も、或は見る物聴者ごとに、心さわぎて閑静ならざるによりて、そが心意（引用にメテ）も感むやうも深切ならざれば、そは此の徒歌の式に相応せざる（刊本し）をとて、はじめて浅野家におきて徒歌の会おこなふに、今の如く明障子を以て其場を建隔て、唱ふ者は内にありて心意を閑静ならしめ、それ聴べき者は外面に在らせて聴くことゝはせしを、其頃はしも、世に気疎き事に人皆いひあざみたりしが、それあしとにもあらざりしか（底本が）、後にはおしなべてこれの徒歌の会の式としもなり来りて、今はた世に此式にならざるはなし。此事はしも、浅野家にしては、三代栄富ぬしの思ひ兼によりて工（み）出られたるところなるよし、伝へ承りぬ。



『鸚鵡籠中記』宝永三年三月二十五日条

「衣の棚薗久兵衛宅へ行。謡講を聞。久兵衛声よく上手也。所々に謡の師の講多けれども、廿五日講を人皆欲す。久兵衛親久兵衛は、福王茂兵衛が弟子にて、当流を謡出したる者也。惣て京都上下謡甚はやり、童部迄仮初にも謡をす(中略)唐紙障子を隔て聴之」

【謡講式目】

法政大学鴻山文庫蔵「朝倉社中謡講定書」

定

会定日　十九日
言合日限
十二日・十四日・十五日・十七日　役立

右言合、各暮前より御出勤可被下候。取分役立ニ者、無御不参御出可被下候。若御用事等も御座候ハハ、兼而御繰合セ置候而、御出被下、同音之移リ合、御心掛、且地渡シ御あしらい可被成候。尤麁役たり共、御役くり等閑ニ被成間鋪候。取分御無役之旁々ハハ、相楽之御事ニ御座候間、別而同音御入精被成、無御不参御出可被下候。常々御稽古定、休日之外、無御懈怠御出可被成候。且又御両三人茂御出合之節者、月次番組之内、同音御言合セ可被成候。右之趣、各様御一統御承知可被下候。以上

文化四年丁卯五月　朝倉社中

起請文之事

一、拙者儀、御流儀謡就執心、則此度御相伝被成下、忝大慶仕候、然ル上者、芸道ニ付少シ茂仰ニ背申間敷候事

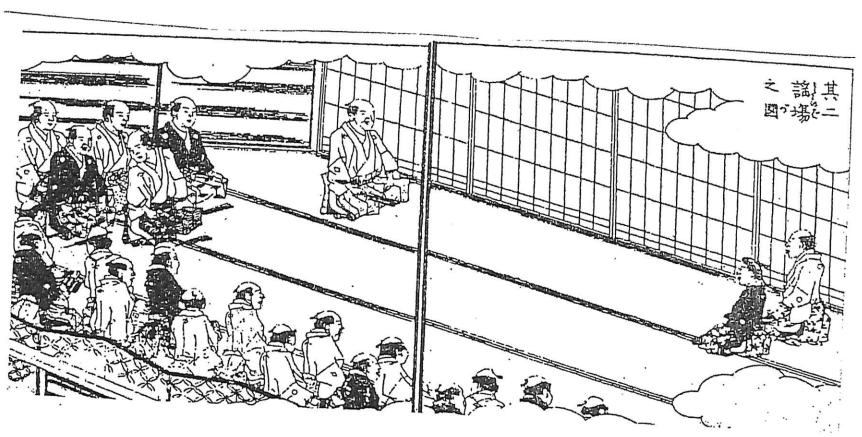
一、已後被仰聞候事共幷御本之写、他人ハ不申及、雖為親子兄弟、一切他言他見仕間鋪候、若可相譲子孫無御座候ハハ、不残返上可仕候。

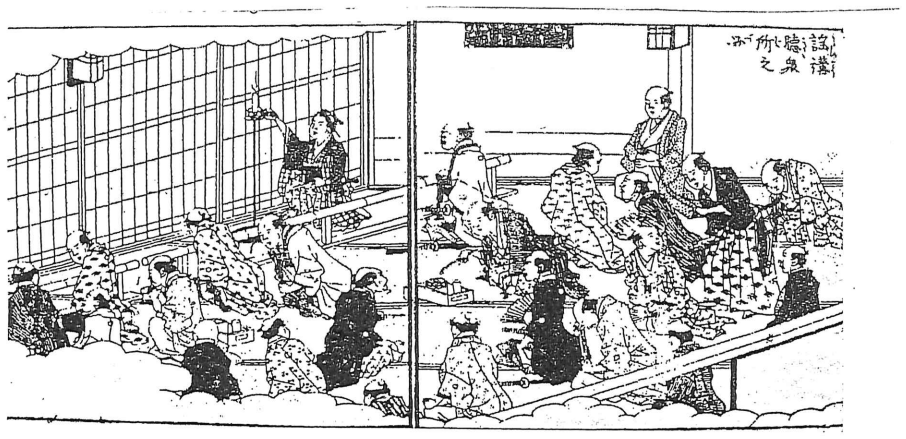
一、他流者不申及、御同流たり共、他之師家江立寄申間敷候事。

一、役之儀、麁役たり共、相勤可申候。且又他所ニ而相勤候とも場所幷相手等致吟味、筋悪敷所ニ而猥ニうたひ申間敷事。

一、十九日出勤之儀、謡出精仕候上、以御指図相勤可申候。尤如何様之儀御座候共、御流儀替申間鋪候。仮令遠国相隔候共、麁略仕間敷候。尤末々謡稽古相止候とも、師恩忘却不仕、私生涯者御謝儀等等閑ニ仕間敷候事。

一、謡出精之上、園氏御家元なとへも貴殿御取次を以入門可仕候事





No. 2

井上家旧蔵資料「定」（能楽研究所蔵）

定

月並定日
廿一日　十九日・廿日、両夜同音言合、当夜袴着用　旦シ御持参ニ而も御預ケ置成共
付役ハ無本ニ而御勤可被下候。大役ハ格別ニ候。
会料　壱匁弐分定　誓約之御方ハ御不参ニ而も御出銀被下度候。
外ニ盆前畳代壱匁、十二月炭代壱匁
右ハ書出し之内江認置候間、御承知可被下候。

一、誓約料　金弐百疋
外ニ御家内江之御祝儀ハ、最寄社中ニ御尋合可被成候。
一、月並江始而入会被成候節、為御肴料　金五拾疋
一、九番披キ　山会之節社中江為御肴料　金百疋
外ニ同音言合中為御肴料
金五拾疋与酒三升御差出シ可被成候。
宅ニ而御披之節ハ当夜社中江為御肴料
金五拾疋
外ニ同音言合中為御菓子料
金弐拾五疋御差出し可被成候。
但シ山会披・宅披、前後ニ相成候共、御出金、右同断之事。
一、再度九番　山会之節ハ社中江為御肴料　金五拾疋
外ニ同音言合中為御肴料
金五拾疋与酒三升御差出し可被成候。
宅之節ハ為御肴料　金五拾疋
但シ月並鉢木ハ再度ニ而も、宅披同様之事
一、壱番披　当日社中江為御肴料　金弐百疋
外ニ同音言合中為御肴料
金百疋与酒六升御差出し可被成候。右ハ両度ニ遣リ申候。
右九番披・壱番披ニ付、先生并御家内江御挨拶之義ハ、先披之方、又者老分江御尋合セ可被成候。
但シ、道成寺・正尊・望月等御披之節ハ、右御出金格別之事ニ候。
一、山会之節、先生江御挨拶　一統より金百疋
外ニ同音言合中　為雑費料　金百疋
一、山会之節、行事弐人、御勤可被被下候。
右之通、御承知可被下候。
安政三辰年九月　田中執事

【なぜ謡はこれほど流行したか】
→謡曲の享受のあり様にそのヒントが隠されている

江戸中期刊『今泉謡之抄』
石門心学による新作謡曲、謡講釈
道徳教育のツールとして謡曲が利用

江戸前期～中期の町人と能楽との関わり
三井高房『町人考見録』
「惣体町人の子ども、能芸をこのみ習ふもの、他人のあいさつに譽まゝ、能囃子につれ行、遊芸を致させ候」

江島其磧『世間子息気質』
「身代不相応に奢り、子共に遊芸をはげませ、家業の事は親父がさばき、年中打囃子にかゝらせおき（中略）内縁を求めて貴人の御能の役をつとめさせ、家の面目世の外聞と、無性に金銀いれて習ひ事を伝受させ、身共が悴子はもはや乱道成寺をゆるされましたと、子自慢せらるゝ」

手島堵庵『我津衛』
「常なみの町人、たしなみて益見へざる芸は、茶湯、立花、能、打はやし、謡も素人の諷ふは鼓にあはぬがたのもしき物ぞかし。拍子が能く合て、かんじんのたなおろしに勘定のあわぬは、其ためし多く見きたれり」

『石田先生語録補遺』
「謡ヲ能ウタフ名人ハ弟子芸古ヲ聞ナガラ他人ト咄ナドシテ居テモ、其節ノ　悪トコロアレバ、直ニ教ナヲスルナリ。謡ヲ専聞カント思フ心ナケレドモ、能得タル処ヨリ弟子ノ節ノアシキコトアレバ、我レニ不合故ニ、他ノコトヲ聞ナガラ能教ルコト内明ナルユヘナリ」

手島堵庵『東郭先生遺文』
閏二月朔日、浅野氏木曽願書開きし給ふ日のあした祝して
よき朝の日出めてたや千世や千代、木曽願成就ときも如月

『浅見絅斎全集』新作謡曲（桜井）に関する注
「余嘗在京都而閲一写本、中収楠謡曲一篇。題曰強斎若林先生御作、園久兵衛章」

【京都の謡講式日】
十一日　橘伝三社中
十一日　竹村孫之進会（観世滋章の忌日）後、片山の謡会に継承
十二日　林宅●
十六日　高野亦兵衛社中
井上宅●
十七日　薗弟子井上社中
十九日　進藤流意三門流
二十一日　薗弟子朝倉社中
井上弟子田中社中
長園社中
二十二日　観世講（双林寺）
二十四日　浅野宅●
二十五日　薗宅●

No.3

観世流謡本

元和六年卯月　石田少左衛門(元和卯月本一番綴)
戊辰(寛永五年)季秋　玉屋　(寛永玉屋本)
寛永六年卯月　刊者不明(寛永卯月本)
寛永六年卯月　刊者不明　一番綴半紙本
寛永六年卯月　刊者不明　五番綴半紙本
寛永六年卯月　刊者不明　五番綴半紙本
寛永六年五月　大津屋市郎兵衛　一番綴半紙本
寛永六年七月　刊者不明　一番綴中本
寛永六年七月　刊者不明　一番綴中本
寛永六年七月　刊者不明　一番綴中本
寛永七年二月　敦賀屋久兵衛　一番綴中本
刊年不明　敦賀屋久兵衛　一番綴中本
寛永七年黄鐘　黒沢源太郎　中本
寛永七年黄鐘　黒沢源太郎　五番綴中本
寛永十年二月　(中野)道伴　中本
寛永十年二月　村上平楽寺　一番綴中本
寛永十年二月　刊者不明　一番綴中本
寛永十二年三月　(中野)道伴　中本
寛永十二年三月　林　一番綴中本
寛永十二年三月　刊者不明　一番綴中本
寛永十三年仲春　刊者不明　改装一番綴半紙本
寛永十三年二月　刊者不明　一番綴中本
寛永十三年三月　(中野)道伴　一番綴中本
寛永十三年　西村又左衛門　一番綴中本
寛永十四年二月　西村又左衛門　一番綴中本
寛永十五年二月　刊者不明(三葉印)　一番綴中本
寛永十六年正月　(中野)道伴　一番綴中本
寛永十六年六月　道伴？　一番綴中本
寛永十六年六月　刊者不明　一番綴中本
寛永十六年暮秋　西村又左衛門　一番綴中本
寛永十七年正月　(中野)道伴　一番綴中本
寛永十七年二月　(中野)道伴　一番綴中本
寛永十七年二月　刊者不明　一番綴中本
寛永十八年正月　みのや　一番綴中本
寛永十八年二月　刊者不明　一番綴中本
寛永十八年暮春　西村吉兵衛　一番綴中本
寛永十八年卯月　刊者不明　五番綴半紙本
寛永十八年六月　刊者不明　一番綴中本
寛永十九年二月　刊者不明　中本
寛永二十年五月　刊者不明　一番綴中本
寛永癸未(二十年)　林甚右衛門　一番綴中本
寛永二十一年正月　(中野)道伴？　一番綴中本
寛永二十一年三月　みのや　一番綴中本
正保二年九月　刊者不明　一番綴中本
正保二年十一月　(中野)道伴　一番綴中本
正保三年三月　(中野)道伴　一番綴中本
正保三年十月　安田十兵衛　一番綴中本
正保三年霜月　西田勝家　一番綴中本
正保耶査(四年)孟春　刊者不明　半紙本
正保耶査(四年)孟春　敦賀屋久兵衛　五番綴大形本
正保耶査(四年)孟春　西村又左衛門　半紙本
正保丁亥(四年)孟春　村上平楽寺　一番綴半紙本
正保四年正月　杉田勘兵衛　一番綴半紙本
正保四年二月　刊者不明　一番綴中本
正保四年八月　村上平楽寺　一番綴中本
正保四年八月　刊者不明　一番綴中本
正保五年二月　(中野)道伴　一番綴中本
正保五年仲春　田原　一番綴中本
正保五年一月　山本弥兵衛　一番綴中本
正保五年一月　山本弥兵衛　一番綴中本
正保五年二月　刊者不明(不明印)　一番綴中本
正保五年三月　刊者不明　一番綴中本
慶安元年卯月　刊者不明　五番綴半紙本
慶安元年五月　山本弥兵衛　一番綴中本
慶安元年七月　物本屋清兵衛　一番綴中本
慶安二年初陽　吉野屋権兵衛　五番綴中本
慶安二年正月　道伴？　一番綴中本
慶安二年正月　刊者不明　一番綴中本
慶安二年孟春　刊者不明　五番綴半紙本
慶安二年令月(二月)　中村長兵衛　一番綴半紙本
慶安二年初夏　吉野屋権兵衛　半紙本
慶安二年初夏　本屋弥兵衛　半紙本
慶安二年初夏　本屋吉兵衛　半紙本
慶安二年初夏　風月宗知　半紙本
慶安二年五月　堤六左衛門　五番綴半紙本
慶安二年五月　安田十兵衛　五番綴半紙本
慶安二年仲夏　林甚右衛門　半紙本

明暦三年初秋　西田勝兵衛　五番綴半紙本
明暦三年初冬　野田弥兵衛　五番綴半紙本
明暦四年正月　野田弥兵衛　一番綴中本
万治二年衣更着(二月)　山本長兵衛　半紙本
万治二年六月　安田十兵衛　半紙本
万治三年仲春　刊者不明　五番綴小形本
寛文元年八月　山木弥兵衛　一番綴中本
寛文元年九月　秋田屋平左衛門　五番綴中本
寛文耶査孟春　刊者不明　一番綴半紙本
寛文辛丑(元年)末秋　吉野屋権兵衛　五番綴半紙本
寛文三年孟夏　村上勘兵衛　五番綴半紙本
寛文三年孟夏　水田甚左衛門　五番綴半紙本
寛文三年孟夏　刊者不明　一番綴半紙本
寛文三年五月　敦賀屋久兵衛　五番綴半紙本
寛文三年仲夏　秋田屋平左衛門　五番綴半紙本
寛文三年仲夏　野田弥兵衛　五番綴大形本
寛文三年仲夏　風月宗知　五番綴半紙本
寛文三年仲夏　八尾勘兵衛　五番綴半紙本
寛文三年仲夏　吉野屋権兵衛　五番綴半紙本
寛文三年仲夏　安田十兵衛　五番綴小形本
寛文三年仲夏　林和泉掾　十番綴半紙本
寛文三年季夏　村上平楽寺　五番綴
寛文四年三月　高橋清兵衛　一番綴中本
寛文四年三月　刊者不明(不明印)　五番綴中本
寛文乙巳仲冬　丁子屋長兵衛　五番綴半紙本
寛文五年仲冬　丁子屋長兵衛　一番綴中本
寛文六年三月　高橋清兵衛　一番綴中本
刊年不明　刊者不明　一番綴中本
寛文七年仲夏　吉野屋権兵衛　五番綴
寛文七年林鐘　吉野屋権兵衛　一番綴中本
寛文九年仲秋　山本長兵衛　五番綴半紙本
寛文九年九月　野田弥兵衛　五番綴半紙本
寛文十年九月　恵賢　五番綴大形本・半紙本
寛文十年九月　敦賀屋久兵衛　五番綴半紙本
寛文十二年仲夏　秋田屋五郎兵衛　五番綴半紙本
寛文十二年初秋　金屋(山本長兵衛)　一番綴中本
寛文十三年正月　山本長兵衛　五番綴大形本・一番綴半紙本
延宝二年仲冬　野田弥兵衛　五番綴大形本
延宝二年仲冬秋田屋五郎兵衛　五番綴・一番綴半紙本
延宝三年正月　山本理兵衛　一番綴中本
延宝三年正月　高橋清兵衛　改装五番綴
延宝三年孟春　甲府　丸屋　一番綴中本
延宝三年五月　山本長兵衛　五番綴大形本・五番綴・一番綴半紙本
延宝三年五月　山本長兵衛　五番綴・一番綴半紙本
延宝三年五月　永田長兵衛　五番綴半紙本
延宝四年孟春　江戸　松会(三四郎)　一番綴中本
延宝五年孟春　江戸　松会(三四郎)　改装十番綴中本
延宝五年孟春　山本長兵衛　五番綴半紙本
延宝五年仲夏　上村次郎右衛門　五番綴半紙本
延宝五年仲夏　村上平楽寺　五番綴半紙本
延宝五年仲夏　武村市兵衛　改装五番綴半紙本
延宝五年仲夏　ふや仁兵衛　五番綴半紙本
延宝五年仲夏　安田十兵衛　五番綴半紙本
延宝五年仲夏　武村新兵衛　五番綴半紙本
延宝五年仲夏　武村三郎兵衛　五番綴半紙本
延宝五年仲夏　絵草紙屋喜左衛門　五番綴半紙本
刊年不明　武村新兵衛　五番綴半紙本
延宝五年林鐘　村上勘兵衛　五番綴大形本
延宝五年仲冬　山本長兵衛　五番綴中本・一番綴半紙本
延宝五年仲冬　山本長兵衛？　一番綴中本
延宝六年仲冬　寺田与兵次　五番綴半紙本
延宝七年孟春　江戸　松会(三四郎)　一番綴中本
延宝七年夏至　升屋川勝又兵衛　五番綴半紙本
延宝八年正月　山本長兵衛　改装五番綴中本
延宝八年正月　金屋山本有兵衛　一番綴中本
延宝八年仲冬　鱗形屋　一番綴中本

延宝九年仲春　高橋清兵衛　五番綴・一番綴中本
延宝九年六月　山内市兵衛　五番綴中本
天和元年初冬　小河多右衛門　四番綴半紙本
天和二年三月　梶川儀兵衛　五番綴半紙本
天和二年三月　山田六左衛門　五番綴半紙本
天和二年初夏　野田弥兵衛　五番綴半紙本
天和二年初夏　林和泉掾　五番綴半紙本
天和二年仲夏　野田弥兵衛　一番綴半紙本
天和三年六月　大坂池田屋三郎右衛門　五番綴大形本
天和三年初冬　山本長兵衛　五番綴・一番綴中本
天和四年孟春　寺田与平次　一番綴中本
貞享元年仲春　秋田屋五郎兵衛　一番綴中本
貞享元年九月　大坂　和泉屋五兵衛　五番綴大形本
貞享二年五月　山本長兵衛　五番綴大形本・半紙本
貞享二年五月　山本長兵衛　二十番綴中形横本
貞享二年仲秋　江戸西村又右衛門・京西村九郎右衛門・京茨木太左衛門
貞享二年仲秋　山本長兵衛　五番綴・一番綴中本
貞享二年仲秋　山本長兵衛？　改装四番綴中本　六番綴小形本
貞享二年仲秋　大坂山本七兵衛　一番綴中本
貞享三年正月　小河多左衛門　五番綴半紙本・中本
貞享三年孟春　寺田与平次　五番綴半紙本・中本
貞享三年五月　大坂和泉屋五兵衛　五番綴半紙本
貞享三年九月　山本長兵衛　五番綴半紙本・大形本・一番綴半紙本
貞享三年九月　林和泉掾　五番綴小形本
貞享三年仲冬　寺田与平次　五番綴半紙本
貞享四年初秋　寺田与平次　五番綴半紙本・中本
貞享五年五月　山本長兵衛　五番綴・一番綴半紙本
貞享五年五月　鈴木太兵衛　五番綴半紙本
元禄二年正月　林和泉掾　五番綴小形本
元禄二年仲春　村上平楽寺　五番綴半紙本
元禄二年季春　小河多左衛門　五番綴半紙本
元禄二年卯月　秋田屋五郎兵衛　五番綴・一番綴中本
元禄二年五月　山本長兵衛？　五番綴半紙本
元禄二年五月　長兵衛　五番綴半紙本
元禄二年　ふや仁兵衛　五番綴半紙本
元禄三年正月　村上平楽寺　五番綴半紙本
元禄三年二月　山本長兵衛　五番綴・一番綴中本
元禄三年卯月　秋田屋五郎兵衛　五番綴半紙本
元禄三年六月　山本長兵衛　五番綴半紙本・大形本
元禄三年六月　京山本長兵衛・大坂甲又三郎　五番綴半紙本
元禄三年初秋　山本平左衛門　五番綴半紙本
元禄四年正月　小河多左衛門　五番綴・一番綴中本
元禄四年正月　船戸半兵衛・古藤七郎兵衛・茨城多左衛門　五番綴半紙本
元禄四年孟春　小河多左衛門　五番綴大形本・半紙本
元禄四年五月　大野木市兵衛　五番綴中本・半紙本・一番綴中本
元禄四年五月　名古屋安井久兵衛　一番綴中本
元禄四年八月　甲州屋又左衛門　五番綴半紙本
元禄五年初春　鱗形屋　一番綴中本
元禄五年五月　大坂　野村長兵衛　五番綴中本
元禄六年正月　大坂本屋仁兵衛　一番綴半紙本
刊年不明　大坂正本屋仁兵衛　一番綴半紙本
元禄六年正月　大坂山本九右衛門　一番綴半紙本
元禄六年正月　大坂岡田藤兵衛　一番綴中本
元禄六年正月　藤田　一番綴中本
元禄六年二月　磯野平三郎・磯野三郎右衛門　五番綴半紙本
元禄六年二月　山本長兵衛　五番綴中本・十番綴・一番綴・三番綴半紙本
元禄六年二月　鱗形屋　一番綴中本
元禄六年七月　寺田与平次　五番綴中本
元禄六年初秋　梅村弥右衛門　五番綴半紙本
元禄七年孟春　小河多左衛門　五番綴大形本・半紙本
元禄七年正月　小河多左衛門　五番綴中本
元禄八年卯月　秋田屋五郎兵衛　一番綴中本
元禄八年五月　山本長兵衛　中形横本
元禄八年五月　山本長兵衛　五番綴半紙本
元禄八年九月　大坂岡田三郎右衛門　五番綴半紙本・大形本
元禄九年正月　川勝五郎右衛門　五番綴半紙本
元禄十年正月　藤田屋　一番綴中本
元禄十年五月　山本長兵衛　五番綴半紙本
元禄十年林鐘　隅谷源右衛門　五番綴半紙本
元禄十一年孟夏　宣風坊　小形横本
元禄十一年霜月　江戸田方屋伊右衛門　五番綴小形本
元禄十二年孟春　小河多左衛門　五番綴半紙本
元禄十二年孟春　近藤喜右衛門・古藤七郎兵衛・小河多左衛門
元禄十三年正月　安藤八左衛門　一番綴中本　五番綴半紙本
元禄十四年孟春　古藤七郎兵衛　五番綴半紙本
元禄十四年季春　小河多左衛門　六番綴小形本
元禄十四年季春　小河多左衛門　十番綴小形本

元禄十六年正月　小河多左衛門　五番綴中本
元禄十六年仲春　江戸鱗形屋三左衛門　一番綴中本
元禄十六年初秋　江戸村田屋次郎兵衛　一番綴中本
元禄十七年正月　京川勝五郎右衛門・江戸升屋五郎右衛門　五番綴半紙本
宝永元年五月　大坂　和泉屋五兵衛　五番綴・一番綴半紙本
宝永元年六月　安藤八左衛門　一番綴中本
宝永元年仲秋　山本長兵衛　五番綴半紙本
宝永二年仲春　山本長兵衛　五十番綴中形横本
宝永二年八月　大坂　正本屋平兵衛　一番綴中本
宝永三年正月　大坂　正本屋平兵衛　改装五番綴本
宝永三年仲秋　京　川勝五郎右衛門・江戸　升屋五郎右衛門　五番綴半紙本
宝永四年初春　藤田屋　一番綴中本
宝永四年仲春　江戸　鱗形屋孫兵衛　一番綴中本
宝永五年孟春　江戸　鱗形屋三左衛門　一番綴中本
宝永五年正月　児玉氏　五番綴半紙本
宝永六年仲春　小河多左衛門　五番綴・一番綴中本
宝永六年仲春　江戸　鱗形屋三左衛門　一番綴中本
宝永七年孟春　寺田与平次　五番綴中本・半紙本
正徳元年五月　安藤八左衛門　中本
正徳元年九月　野田弥兵衛　五番綴半紙本
正徳二年正月　京　川勝五郎右衛門・江戸　升屋五郎右衛門　五番綴半紙本
正徳二年仲春　江戸　鱗形屋三左衛門　一番綴中本
正徳二年仲春　江戸　鱗形屋三左衛門　一番綴中本
正徳二年正月　大坂　山本九右衛門　五番綴半紙本
正徳三年正月　小河多左衛門　五番綴中本
正徳三年正月　小河多左衛門　一番綴中本
正徳三年孟春　今井七郎兵衛　五番綴・一番綴中本
正徳三年孟春　山本長兵衛　一番綴中本
正徳三年仲春　山本長兵衛　五番綴中本・半紙本・一番綴内組・外組本
正徳三年仲春　大坂　玉水源二郎　三番綴中本
刊年不明　大坂　玉水源二郎　一番綴中本
正徳五年五月　北村四郎兵衛　五番綴中本
正徳五年中龜　小林喜右衛門　一番綴半紙本
正徳五年中龜　谷村清兵衛　一番綴半紙本
正徳五年九月　今井七郎兵衛　五番綴・一番綴半紙本

正徳六年正月　菊屋長兵衛　五番綴半紙本
正徳六年弥生　山本長兵衛　五番綴半紙本
正徳六年五月　林和泉掾　五番綴小形本
享保元年五月　安藤八左衛門　一番綴中本
享保三年仲春　山本長兵衛　五番綴中本
享保三年仲夏　今村平兵衛　一番綴中本
享保三年九月　山本長兵衛　五番綴半紙本・十番綴大本
享保十年初春　江戸　鱗形屋孫兵衛　一番綴中本
刊年不明　江戸　鱗形屋孫兵衛　一番綴中本
刊年不明　江戸　鱗形屋孫兵衛　中本
享保十四年三月　刊者不明　一番綴中本
享保十八年仲呂　山本長兵衛　五番綴半紙本
享保十八年仲呂　山本長兵衛・広岡安兵衛・広屋福三郎・加嶋屋清助・近江屋善兵衛　一番綴半紙
本
享保十八年仲呂　大坂　天満屋安兵衛　一番綴半紙本
刊年不明　大坂　天満屋安兵衛　一番綴半紙本
刊年不明　大坂　天満屋安兵衛　半紙本
享保十八年中冬　菱屋治兵衛　五番綴・一番綴半紙本
元文二年正月　大坂　正本屋平兵衛　一番綴半紙本
元文四年仲春　吉野屋藤兵衛　五番綴中本
元文四年　大坂　鳥飼市兵衛　一番綴中本
元文五年仲秋　江戸　出雲寺和泉掾　五番綴半紙本
延享二年三月　安藤八左衛門　五番綴中本
延享二年　江戸　西村屋与八　一番綴中本
延享三年　江戸　西村屋与八　一番綴中本
刊年不明　江戸　西村屋与八　一番綴中本
刊年不明　江戸　西村屋与八・岡田屋嘉七・和泉屋市兵衛　一番綴中本
刊年不明　江戸　西村屋・岡田屋・和泉屋(実は蔦屋重三郎刊か)　一番綴中本
宝暦元年十一月　大坂　糸屋市兵衛　一番綴半紙本
宝暦五年仲春　山本長兵衛　五番綴・一番綴中本
宝暦五年南呂(八月)　山本長兵衛　中形横本
宝暦五年十一月　大坂　糸屋平井源助　一番綴半紙本
宝暦七年三月　刊者不明　五番綴中本
宝暦八年仲春　山本長兵衛　五番綴中本・半紙本・一番綴中本
宝暦九年正月　井上忠兵衛・岡井吉右衛門　五十番綴小形横本
刊年不明　江戸　山本長兵衛　五十番綴小形横本
刊年不明　江戸　山本九左衛門　一番綴中本
明和元年仲秋　江戸　西宮新六　一番綴中本
明和二年林鐘　江戸　出雲寺和泉掾　五番綴大形本・一番綴半紙本
明和六年十月　大坂　塩屋善兵衛　一番綴半紙本
安永七年重陽　大坂　勝尾屋六兵衛　一番綴中本
安永七年　大坂　小林六兵衛　一番綴半紙本

天明二年　江戸蔦屋重三郎　一番綴中本
刊年不明　江戸鶴屋喜右衛門　一番綴中本
天明四年季夏　山本長兵衛　五番綴半紙本
天明六年十一月　大坂泉屋善兵衛　一番綴半紙本
寛政十一年弥生　山本長兵衛　五番綴半紙本
寛政十一年弥生　山本長兵衛・大坂甲又三郎　三番綴中本
寛政十二年　江戸蔦屋重三郎　五番綴半紙本
文化元年孟夏　山本長兵衛　五番綴半紙本
文化元年孟夏　山本長兵衛・大坂甲又三郎　五番綴半紙本
文化十三年十一月　大坂阿波屋文蔵　一番綴半紙本
刊年不明　大坂　和多屋喜兵衛　一番綴半紙本
文政己卯(二)年三月　小升屋喜太郎　一番綴中本
己卯年三月　小桝屋喜太郎　一番綴中本
文政八年夏　由井邑啓文　五番綴豆本
刊年不明　御室御所？　五番綴豆本
刊年不明　江戸　岩戸屋喜三郎　一番綴中本
天保六年仲夏　信州松本　高美甚左衛門　三番綴中本
刊年不明　信州松本　高美屋甚左衛門　一番綴中本
刊年不明　江戸　森屋治兵衛　一番綴中本
刊年不明　名古屋　本屋久兵衛　一番綴中本
刊年不明　松本？　しまや幸助　一番綴中本
天保十一年孟春　山本長兵衛　五番綴半紙本
弘化三年　村田屋幸太郎・二文字屋藤右衛門・古久屋紋右衛門　一番綴中本
嘉永二年孟春　大坂　柳原喜兵衛・大野木市兵衛　五番綴半紙本
慶応二年孟春　山本長兵衛・橘本常祐　五番綴・一番綴小形中本

進藤流謡本
刊年不明　木田七兵衛　一番綴・五番綴中本
寛永十五年　西村又左右衛門　一番綴中本
寛永十六年暮秋　西村又左衛門　一番綴中本
寛永十七年暮春　西村又左衛門　一番綴中本
慶安二年仲春　桂六左衛門　一番綴・五番綴中本
明暦二年仲冬　今村又兵衛　一番綴・三番綴中本
明暦四年孟夏　西村又左衛門　一番綴中本
寛文二年仲春　上田三郎右衛門　改装五番綴本
寛文五年孟春　今村又兵衛　五番綴中本
寛文六年仲春　桂六左衛門　一番綴・五番綴中本
寛文十一年仲春　上田三郎右衛門・高橋清兵衛　五番綴中本
寛文十三年仲春　桂六左衛門？　一番綴中本
延宝五年孟夏　今村又兵衛　五番綴中本
延宝九年仲春　桂六左衛門　五番綴大形本
貞享元年十月　高橋清兵衛　五番綴・一番綴中本
貞享三年季秋　桂六左衛門？　一番綴中本

宝生流謡本
寛政己未暮春　宝生大夫　五番綴大形本・半紙本・二十番綴半紙本
天保十五年正月　宝生大夫　大形横本
嘉永六年五月　宝生大夫　五番綴半紙本
安政六年五月　了従　十番綴小形本

下掛り謡本
万治元年臘月　林和泉　五番綴大形本
寛文七年三月　刊者不明　五番綴半紙本
天和元年霜月　井筒屋六兵衛政春　五番綴半紙本
天和元年霜月　西森六兵衛政春・吉田徳兵衛満正　五番綴半紙本
天和二年仲春　丸屋源兵衛　五番綴半紙本
貞享三年霜月　西森六兵衛政春・吉田徳兵衛満正・江戸　須原茂兵衛友春　五番綴半紙本
貞享四年季商　丸屋源兵衛　二十番綴中形横本
貞享四年季商　山本長兵衛　二十番綴中形横本
貞享四年季商　荒川三郎兵衛　二十番綴中形横本
貞享四年季商　刊者不明　二十番綴中形横本
貞享四年季商　山本長兵衛　二十番綴中形横本・五十番綴小形横本
元禄二年初冬　江戸　利倉屋喜兵衛　五番綴半紙本
元禄三年弥生　谷口七左衛門・伊勢や七郎兵衛　十番綴・五番綴中本
元禄三年弥生　谷口七左衛門　五番綴中本
元禄四年九月　谷口七左衛門・伊勢や七郎兵衛　十番綴・五番綴中本
元禄十三年孟陽　刊者不明　小形横本
元禄十三年孟陽　山本長兵衛・藤井孫兵衛・勝村治右衛門・斎藤庄兵衛　五十番綴小形横本
元禄十六年八月　江戸　萬屋清兵衛　五番綴小形本
元禄十六年霜月　荒川三郎兵衛一寿　二十番綴中形横本
宝永二年仲夏　宣風坊書肆　五十番綴小形横本